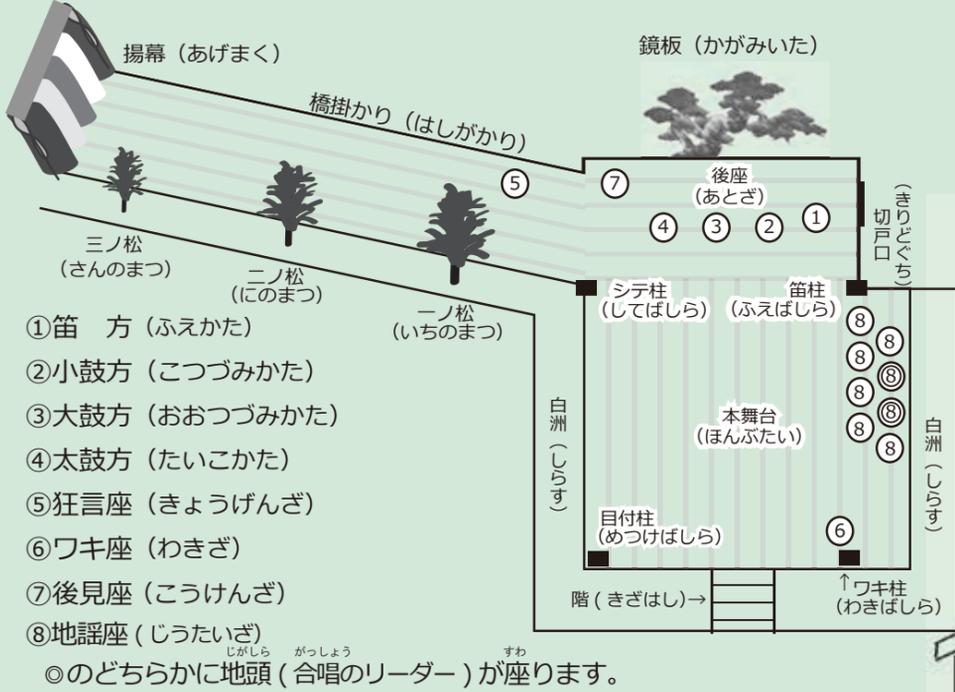


●能舞台の呼び方



●能ってなあに？

能は今から約650年前に、観阿弥・世阿弥親子によって大成された、日本のミュージカルで、現在残っている世界中の演劇の中で一番古く、世界無形文化遺産にも登録されています。能舞台も特徴があり、舞台が客席に突き出しており、より演者やお囃子の迫力や緊迫感が客席に伝わる様式です。本公演の時は皆さんの体育館が能舞台に大変身します。お楽しみに！

●舞台上にいる人たち

後見 (こうけん)

舞台上の役者たちのお手伝いをします。役者が病気になるったり倒れたとき、代役もします。

地謡 (じうたい)

合唱隊のようなもので、物語の情景や、登場人物の心理を謡で表現します。

太鼓 (たいこ)

牛の皮でできていて、音が華やかで力強く、クライマックスを盛り上げます。太鼓がない演目もあります。

大鼓 (おおつづみ)

馬の皮と桜の木でできていて、演奏前に炭火で皮を乾燥させます。カーン！と真っ直ぐな甲高い音が響きます。

小鼓 (こつづみ)

大鼓と同じで馬の皮と桜の木でできており、叩くときに皮を張っている調緒を締めたり緩めたりして、音に変化をつけます。

笛 (ふえ)

煤竹 (いろいろの上で長くいぶされた竹) で出来ていて、能管とも呼ばれ、能の楽器で唯一のメロディ楽器です。

こんにちは、大槻能楽堂です

大槻能楽堂は大阪で、昭和10(1935)年に大槻十三が設立。公益性をもった能楽堂として運営しています。近くには大阪城や大阪歴史博物館もある、文化豊かなところです。設立時に造られた能舞台は、登録有形文化財に認定されています。一度足を運んでみてくださいね。

知ってますか？～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることとしました。日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

令和2年度

文化芸術による子供育成総合事業

—巡回公演事業—

能「舍利」

製作・公演団体 大槻能楽堂

「文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—」

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



プログラム

- はじめての能楽 能について (DVD鑑賞)
- 能で使うあれこれ! (能面・小道具・作り物紹介)
- 謡ってなあに? (謡に挑戦・共演・発表会)
- ストーリー説明「舍利」について
- 能楽鑑賞「舍利」

能「舍利」あらすじ ①～④まで読んでくださいね！
 実際に鑑賞するのは⑤～⑥です。



騒ぎを聞きつけた寺の男は、大事な舍利がなくなっているのに気がきます。

釈迦が死んだ時も足
 疾鬼が舍利を奪い、
 それを韋駄天が取り
 戻した話を語ります。



① 出雲の国(島根) から僧
 は牙舍利を見つと都
 (京都)にやってきました。



⑤ 僧が舍利を取り返すよ
 う祈ると、韋駄天が現
 れ、足疾鬼を追いかけ
 ます。



② すると、あやしい里人が現れ、舎
 利のお蔭で釈迦の死後も釈迦に会
 えるありがたいさを僧に語ります。



⑥ 逃げる足疾鬼と追う韋駄天

足疾鬼は逃げ切ることが
 できるのではありませんか？



③ 舎利を奪い、
 天井を蹴り破つ
 て姿を消します。

③ やがて里人の様子が
 一変、鬼の本性を現し、

能「舍利」登場人物

シテ (主役)
 能の主役のこと。生きている人間のほか、霊精霊・
 神・鬼など多様です。能では前半に出てくる人物
 は後半の仮の姿として現れることが多いです。

里人に化けた足疾鬼です。お釈迦様が
 大好きで、昔亡くなった時に牙舍利(歯の遺骨)
 を盗みました。お釈迦様への気持ち忘れられず、
 また盗んでしまいました。

まへ
 シテ
 ぜんはん
 (前半)



里人の本当の姿です。足が速くて、世界中、
 天界中を逃げ回ります。前に盗んだ時は韋駄天に捕ま
 りましたが、今回は逃げ切りたい…。

のち
 シテ
 こんはん
 (後半)



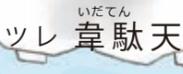
寺(泉涌寺)を守る韋駄天という神です。
 昔も足疾鬼から牙舍利を奪い返しました。
 今回も逃がしません！

出雲の国(島根) 京都 見物
 に来た僧です。一緒に寺でお参りしていた里人が
 まさか鬼だったなんて。韋駄天が牙舍利を取り
 戻してくれたらいいのですが…。



ワキ (相手役)
 シテの相手役です。お坊さん、大臣など色々な役があり、
 能面は使いません。シテは異次元の世界から現れて来る
 者が多いですが、ワキは現実に生きている人です。

ツレ (助演者)
 助演役で、シテツレとワキツレがありま
 す。舞台上華やかさを添えたり、シテの
 存在を引き立たせる効果があります。



能「舍利」詞章

※セリフのこと

〔ワキ(僧)の登場 前半のあらすじを語る〕

〔お囃子が始まりシテ(足疾鬼)が登場〕

〔お囃子のテンポが速くなり、
 ツレ(韋駄天)が登場します〕

ツレ「そもそもこれは。この寺を守護し奉る。
 韋駄天とは我が事なり。ここに足疾鬼と云
 ふ外道。在世の昔の執心残つて。又この舎
 利を取つて行く。何處までかは遁すべき。
 その牙舍利。置いていけ」

やく 訳

「私はこのお寺を守る韋駄天という神です。
 足疾鬼という悪い鬼が、昔お釈迦様が亡く
 なられた時に牙舍利を奪おうとした気持ち
 を捨てきれず、また牙舍利を持って行って
 しまった。どこに行つたとしても逃さない
 ぞ。その牙舍利を置いていきなさい！」

やく 訳

シテ「いや叶ふまじとよこの佛舍利は。誰も望
 みの。あるものを」
 「それはできない。これは誰だつて欲しい
 仏舍利だ。」

やく 訳

地謡「欲界色界、無色界」
 「人が生まれ変わりを繰り返す三つの世界」

〔シテ(足疾鬼)とツレ(韋駄天)との追いかかけ合い〕

地謡「欲界色界、無色界。化天耶魔天 他化自
 在天。三十三天 攀ち上りて。帝釈天まで
 追ひ上ぐれば。梵王天より 出で會ひ給ひ
 て。もとの下界に。追つ下す」

やく 訳

「人が輪廻転生する三つの世界や、様々な
 天界に逃げるのを追いかけて、最後は梵王天
 というところで待ちかまえて、もといた下
 界に追い返しました。」

シテ「左へ行くも」

地謡「右へ行くも。前後も天地も 塞がりて。
 疾鬼は虚空に くるくるくると。渦巻い廻
 るを、韋駄天立ち寄り 宝棒にて。疾鬼を
 大地に うち伏せて。頭を踏まへて牙舍利
 は如何に、出せや出せやと 責められて。
 泣く泣く舍利を 差し上げれば。韋駄天
 舍利を取り給えば。さばかり今までは。
 足疾鬼の。何時しかいまは。足弱車の
 力も尽き。心も茫々と 起きあがりてこそ。
 失せにけれ」

やく 訳

「足疾鬼は前後左右を塞がれて、上にも下
 にもいくことが出来ず、くるくると空中を
 飛び回っているところを、韋駄天は足疾鬼
 に近づき宝棒で大地に打ち伏せて、頭を踏
 みつけ、「牙舍利はどこだ、出しなさい」
 と責め、足疾鬼は泣く泣く牙舍利を取り出
 し、取り上げられました。あれほど足が速
 かった鬼も、力尽き、呆然と起き上がると
 姿を消してしまつたのでした。」